



発行所 一般社団法人 神奈川県造園業協会 横浜市中区常盤町2-10 伸光ビル2階〒231-0014 電話 (045) 662-8793 662-1767 FAX (045) 662-4381



http://www.kanagawazoen.or.jp

感動を、ふたたび。 世界へ、神奈川県で。

神奈川県知事

黒岩 祐治

年頭のあいさつ

(一社)神奈川県造園業協会 会長 小山 俊一



新年あけましておめでとうございます。 新年を迎えるにあたり謹んでお慶び申し上げますと共に造園業界並びに会員皆様方の事業のご発展とご健勝を心からお祈り申し上げます。

昨年は天皇ご即位により新年号、令和の新しい時代の幕開けとなりました。会員の皆様も新しい時代に希望と期待をされた事と思います。又、台風により全国各地で被害が発生し、沢山の被害を受けられた方々にお見舞いを申し上げます。

十月九日、十日に開催されました、関東甲信造園建設業協会協議会の当番県として、第一部では江ノ島セーリング会場と大磯の吉田邸の視察研修場所を見学致しました。引き続き第二部では協議会に移り、技能の向上と継承の取組みについ

てと、維持管理工事(委託費分)の完成工事高への移行について意見交換を行いました。技能向上については、「日本庭園の現場が少なくなり経験する機会が少なくなってきた。」各県共通の意見でした。維持管理工事の完工高への移行については、今後継続して検討していく事となりました。大変活発な協議会となりました。翌日は、スリーハンドレッドゴルフクラブで親睦・交流を深めました。会員の皆様の協力ありがとうございました。

今年度は東京オリンピック・パラリンピックの会場となっており、江ノ島セーリング会場に於きまして昨年要望して参りました緑化整備事業が発注され緑あふれる美しい県土をアピールする絶好の機会であると捉えており、造園業界にとつてまさに力を発揮できる事と思っております。 「明治記念大磯邸園」の緑地整備については、

今後期待している所でございます。国、県に引き続き予算要望をお願いして参ります。又、会員確保と後継者育成並びに人手不足の対応、女性活躍できる業界を進めて参ります。最後に理事会、支部長会、

三部会、四委員会の連携を密にし、合同会議を開催し活動の充実に向け尚一層取り組んで参ります。どうぞ今年も会員皆様方のご支援ご指導を賜ります様お願い申し上げます。



冬河口湖 墨絵 小山俊一氏



オリンピックイヤーがスタートしました。先の東京オリンピックの時、私は小学4年生でした。当時、発売されたばかりのカラテレビが学校の理科実験室に置かれていて、授業中にみんなでボクシングの試合を見ました。カラテレビというものはこんなに美しいものかと衝撃を受けたことを今も鮮明に覚えています。

あれから56年。携帯電話でテレビが見られるのは当たり前、わざわざ店に行かなくても片手で携帯電話をいじるだけで商品は買えてしまう。ドローンが空を飛

んで物は運ぶわ、簡単に空撮をこなすわ。ロボットは大活躍し、ALS(筋萎縮性側索硬化症)の患者さんが、分身ロボットを活用して、県のアドバイザーを委嘱されるまでに・・・

あの当時、鉄腕アトムが見せてくれた未来の社会、いや、それを上回る社会が今や現実のものとなっております。当時、100歳以上の人は全国で100人を超える程度だったのが、今や7万人を

超えるほどに、人の寿命も延びました。ガンとともに生きていくことも珍しい話ではなくなりました。 そんなに進歩した時代にあって、私たちは当時の日本人よりも幸せになっていると言えるでしょうか？ 刑法犯認知件数も交通死亡事故件数も火災件数も大幅に減りました。しかし、虐待、

家庭内暴力、いじめ、おとり運転、特殊サギなど、心が寒くなるようなニュースは一向に減る気配がありません。大地震、台風、大雨など自然災害はかつてより、パワーアップして我々を襲ってくるようになりました。

将来への不安感やむしろ当時より増えているのではないのでしょうか。人と人の関係性が希薄になり、コミュニティのチカラが落ちたと感じる人も増えていきます。

そんな中で迎える東京2020オリンピック・パラリンピック。開催自治体として昨年のラグビーワールドカップ2019の流

れを生かし、みんなで心をひとつにして、世界中に日本の良さ、日本人の素晴らしさをアピールしたいですね。そして、私たちが忘れていた私たち自身のパワーを再発見し、活力あふれる明るい日本、神奈川県を取り戻したい！新年にあたって強くそう思う次第です。

令和2年(2020年) 神奈川県造園人 賀詞交換会開催のご案内

恒例の神奈川県造園人賀詞交換会は、下記のとおり開催しますので、ご案内いたします。

記 日 時 令和2年1月14日(火) 午後6時 場 所 ロイヤルホールヨコハマ 会 費 男性6,000円 女性3,000円 TEL 045-641-1122



令和2年(2020年) 謹賀新年

一般社団法人 神奈川県造園業協会役員一同



- 鈴木 一松 相談役 岸本 和好 相談役 石川 龍二 相談役 小山 俊一 会長 川田 秀一 副会長 松倉 仁 副会長 玉井 隆次 副会長 足立原 哲男 副会長 瀧川 隆雄 理事 岸 純一 理事 倉本 澄夫 理事 小川 名真 理事 鳥海 務 理事 相澤 正章 理事 久保田 航 理事 横山 一平 理事 大胡 周一郎 理事 内田 悟史 理事 金子 篤司 理事 荒井 秀利 理事 高橋 克明 理事 藤井 信良 理事 梅澤 保雄 理事 岡部 一郎 理事 原 茂弘 理事 富田 改 理事 森住 等 理事 芝口 正美 理事 座間 浩一 理事 中島 忠 専務理事 吉川 誠 監事 新倉 治 監事

「かながわのみどりを創り、育てる」講演会・集い」開催

十一月十二日、ホテル横浜ガーデンに於いて「かながわのみどりを創り、育てる」講演会、並びに「集い」を、主催（一社）神奈川県造園業協会、共催（一社）日本造園建設業協会神奈川県支部により開催したところ、浅羽神奈川県副知事、持田神奈川県議、自民党みどりの会会長・同議員、伊藤県土整備局副局長、関矢県土整備局都市部長・鈴木県土整備局大規模公園担当部長・環境農政局緑政部長、また、神奈川県公園協会等緑化関係団体及び会員を含め百名が参加しました。第一部「講演会」では松倉神奈川県造園業協会副会長の開会挨拶の後、千葉大学名誉教授藤井英二郎氏より「街路樹が都市をつくる」の演題でご講演をいただきました。

第一部 「街路樹が都市をつくる」講演会

千葉大学名誉教授 藤井英二郎氏

今日の中身ですが、一つは都市環境が大きく変わってきているということ、九月にフランスのいろいろな都市の日本庭園を中心として調査をさせていただ



千葉大学名誉教授 藤井英二郎氏講演

き、また、街路樹につきまして調査をさせていただき、お話しでは50度になったと聞いております。いずれにしても、コンクリートの路面一面に直射日光の熱をためさせないということ、大きな課題であり、樹幹・枝葉で太陽の直射日光を抑制することによって、都市のヒートアイランドも大きく緩和できる。それを精力的に進めているとお話がありました。

その都市環境の変化は、今世紀末になるとかなり危機的な状況となります。ご存じのとおりスウェーデンのグレタさん16歳が、世界の大人たちに向けてかなり強い憤りのメッセージを発しております。それは、次の世代の自分たちがまともな人間として、これからの温度上昇がとてつもなく大きな負担となる。このことをしっかりと受け止めて科学的な事実として、今の世代がしっかりと責任を果たすということが僕は求められていると思います。今日の話

はそれを最後に申し上げたいと思います。 「中間省略」 その後、一 都市環境の変化と課題、二 パリ・ナント・リヨンの街路樹の実態、三 近年の日本の街路樹の実態とその背景、四 管理体制ーパリ・ナント・リヨンと日本について講演がなされた。

一 都市環境の変化と課題 ここ10年で関東では、年平均気温が約1.5度上(資料)がっている。熱中症死亡者も2020年には5000人台にすぐいくだろう。それくらい地球温暖化は着実に命にかかわる問題になっている。 二酸化炭素の排出量の100年の推移、近年の推移を考えると、今世紀末には4.8度も上がる、もう想像もつかないくらい温度が上がってしまう。これはもう必死になって温暖化対応をしなければならぬ。

暑くなる都市、とりわけヒートアイランドでどんどん暑くなっている都市を冷やすのは、水、緑、土壌です。この3つを展開させなくてはいけないことは間違いない方向です。甲斐憲

次さんの「ふたつの温暖化、地球温暖化とヒートアイランド」というタイトルの本ですけれど、東京の上がり方は、ニューヨークやパリに比べてより早く気温が上がっていることが解る。ニューヨークやパリの建物は石造りでありコンクリートも使われていた。道路はコンクリート舗装で都市は確実に整備されていた。日本は、関東大震災の震災前と震災後の道路舗装を見ると、震災前は砂利舗装で、震災後は後藤新平の指揮の下、震災復興事業が進む中、道路が整備され、今の東京が築かれた。その当時の建物は大体木造で近年コンクリート建築が増え、高層化して熱をためる建物となっている。それがこの急勾配で気温が上がっている背景だろう。いかに道路、建物、ヒートアイランドの原因になっているのか明確に解っていたらいいと思います。

2020年の東京マラソンコースでの遮熱性舗装を進めると路面の温度は10度しか下がらず、これに対して樹幹被覆は路面温度を20度下げる。街路樹の枝葉を展開させれば済む話でこん

な安いことはない。メルボルのシアーズさんが樹冠拡大、樹冠被覆率を現状27%を2040年までに40%にする。と政策として掲げている。もう一つロップパでは雑木林を3メートルくらいのところまで切り倒す。その後30年間そのまま伸ばしている。ですからコブの痕跡が残っているのだが、上部では痕跡が確認できないくらい伸ばしている。フランスもここ30年くらいで街路樹も大きく変わっている。30年以内に切られたものについては、全く剪定の跡が見られませんが、下枝だけ切って、植え付けたときは、こんなに大きくないので下枝だけ早めに切って上はもう剪定しない。

特に驚いたことは、片側2車線の外側を自転車道としてそこに街路樹を植えて土壌帯としていこと、これはいかに土壌が重要かということ、これは韓国もすでにやっています。ここにさまざまな樹木を植えて雨水浸透までにかつて温度を下げようということが明確に読めます。さらに非常に大きいポイントですが交差点に大きな木を植えています。残念ながら日本の道路行政は、交差点近くの高木は視況を妨げるということで、ほとんど認められていない。それを

フランスのナントの人でしたけれども、「見通し少し妨げた方がスピードが落ちる。安全なんだ。」という考え方です。都市の道路というのはスピードをあげて出したまま通り抜けるという発想はもう古い。人の生活環境なのでですから、やはりスピードをおとして、それを当たり前にしなくてはいけません。その時には一方で信号待ちの人が大勢いらつしやる。その方々が直射日光にあたらぬように信号待ちできるようなことが必要です。そのためにも高木を植えるということが機械的にやっていくことが必要である。

さらにリヨンでは幹にヘデラです。「幹を暑さから守るためにからましているんだ」そのくらい温度が上がっているため、こうやって幹を保護する。これからの気候変動に対応するためには、様々な樹種を植えて、生物多様性もしながら、ど

つ切り剪定にかい丁度コブになっている。これを猫の頭と呼んでいる。ヨーロッパでは雑木林を3メートルくらいのところまで切り倒す。その後30年間そのまま伸ばしている。ですからコブの痕跡が残っているのだが、上部では痕跡が確認できないくらい伸ばしている。フランスもここ30年くらいで街路樹も大きく変わっている。30年以内に切られたものについては、全く剪定の跡が見られませんが、下枝だけ切って、植え付けたときは、こんなに大きくないので下枝だけ早めに切って上はもう剪定しない。

フランスのナントの人でしたけれども、「見通し少し妨げた方がスピードが落ちる。安全なんだ。」という考え方です。都市の道路というのはスピードをあげて出したまま通り抜けるという発想はもう古い。人の生活環境なのでですから、やはりスピードをおとして、それを当たり前にしなくてはいけません。その時には一方で信号待ちの人が大勢いらつしやる。その方々が直射日光にあたらぬように信号待ちできるようなことが必要です。そのためにも高木を植えるということが機械的にやっていくことが必要である。

つ切り剪定にかい丁度コブになっている。これを猫の頭と呼んでいる。ヨーロッパでは雑木林を3メートルくらいのところまで切り倒す。その後30年間そのまま伸ばしている。ですからコブの痕跡が残っているのだが、上部では痕跡が確認できないくらい伸ばしている。フランスもここ30年くらいで街路樹も大きく変わっている。30年以内に切られたものについては、全く剪定の跡が見られませんが、下枝だけ切って、植え付けたときは、こんなに大きくないので下枝だけ早めに切って上はもう剪定しない。

特に驚いたことは、片側2車線の外側を自転車道としてそこに街路樹を植えて土壌帯としていこと、これはいかに土壌が重要かということ、これは韓国もすでにやっています。ここにさまざまな樹木を植えて雨水浸透までにかつて温度を下げようということが明確に読めます。さらに非常に大きいポイントですが交差点に大きな木を植えています。残念ながら日本の道路行政は、交差点近くの高木は視況を妨げるということで、ほとんど認められていない。それを

フランスのナントの人でしたけれども、「見通し少し妨げた方がスピードが落ちる。安全なんだ。」という考え方です。都市の道路というのはスピードをあげて出したまま通り抜けるという発想はもう古い。人の生活環境なのでですから、やはりスピードをおとして、それを当たり前にしなくてはいけません。その時には一方で信号待ちの人が大勢いらつしやる。その方々が直射日光にあたらぬように信号待ちできるようなことが必要です。そのためにも高木を植えるということが機械的にやっていくことが必要である。

さらにリヨンでは幹にヘデラです。「幹を暑さから守るためにからましているんだ」そのくらい温度が上がっているため、こうやって幹を保護する。これからの気候変動に対応するためには、様々な樹種を植えて、生物多様性もしながら、ど

つ切り剪定にかい丁度コブになっている。これを猫の頭と呼んでいる。ヨーロッパでは雑木林を3メートルくらいのところまで切り倒す。その後30年間そのまま伸ばしている。ですからコブの痕跡が残っているのだが、上部では痕跡が確認できないくらい伸ばしている。フランスもここ30年くらいで街路樹も大きく変わっている。30年以内に切られたものについては、全く剪定の跡が見られませんが、下枝だけ切って、植え付けたときは、こんなに大きくないので下枝だけ早めに切って上はもう剪定しない。



講演の様子

れが高温に耐えるかまで検討しなくてはならない。土地利用が展開していく前に街路樹が大きくなくていいことが開発の基本だと担当者

者が言っております。日本の場合には構造物と建物が先であり、植穴を掘って客土して植える。このような基本姿勢ではもう対応できない。

三 近年の日本の街路樹の実態とその背景

「資料による実態と背景の例示説明」

○紅葉の時期が遅れているのは温暖化の影響。夏場の暑い盛りや冬の寒い時期の凍害

○国が管理する国道の管理基準に「剪定の実施にあたっては、強剪定のみならず」と書いてある。のみならず」と書いてある。のみならず」と書いてある。のみならず」と書いてある。

○「アスリート・観客に優しい道の検討会」が東京都道事務所が開かれている。その記述に「剪定1年目は緑陰が乏しい」、「剪定2・3年目になると景観・緑陰が良好」、「剪定5年目

建築限界・支障枝あり」とあるが、建築限界、支障枝ありだったら1年目からちゃんとやらなければいけない。これだつて建築限界が明らかにおかしい。こういうものは上を強く剪定したら絶対に出るのです。で

すから剪定方法が間違っている訳で先程の管理基準がおかしい。

○東京都の街路樹等維持標準仕様書は素晴らしい仕様書となっておりますが、ただ大きな課題は「頂部の樹勢が強い樹木の生育特性を踏まえ、上方を強く、下方を弱く剪定すること」と書いてあるがこれが間違えなのです。これをやっていたら建築限界をやつていられ

ません。緑陰も確保できません。枝を伸ばすことに抵抗感を持つておられる方が大勢います。剪定をしなれば当然、だんだん伸長量は収まっていつて基本的には問題なく収まる。その時に発生する枯れ枝の問題をケアしていれば街路樹としての機能を維持できる。そのへんのことをしっかりと考えなくてはならない。

○近年行われている強剪定というのは当然腐朽菌が入ります。全国で街路樹が倒れる原因になっているのは強剪定が一つあります。また、建物とか、道路とか日本ほど掘削が多いところはあります。そのたびに根は傷つき、そのまま適切な処置がなく植え戻されていることがほとんどです。そうすると腐朽菌が入ります。そして倒木の原因では、近年の植栽樹種で倒れているものがけっこうあります。これは植穴掘って客土して植え付けている。根が周りに展開しないため倒れる。これは基本的に植

栽基盤が不十分な状態で放置していることが間違いである。

○それからさらに問題は地下支柱です。残念ながら地下支柱が使われ始めたのは5年くらい前。当初の地下支柱は幹根にベルトが回っていて腐りませんので幹がどんどん成長してくると地下支柱の根幹にベルトと金具が食い込んでしまい、その食い込んだところから腐朽が展開します。地下支柱によりどんどん食い込んでいきますので、当初目的とした緑の効果を発揮できないのです。植栽基盤をしっかり確保することに力を注いでいただきたい。

四 管理体制・パリ・ナン ト・リヨンと日本

「管理費削減と強剪定の背景」

管理費が削減されていて少ない管理費で適切な管理ができていく都市として江戸川区がある。落葉問題も強剪定の背景としてよく取り上げられますが、フランスのナントでは「落葉」というのはみんなのもので、落葉を理由に剪定することはありません」リヨンもそうです。仙台市や名古屋市の都市です。両市とも同じく「落葉問題で剪定はしていません」中野区には落葉受忍の条例があります。

落葉問題で剪定をするようになりますと、負の連鎖

が起きてしまいます。これは街路樹担当者がしっかりとガードしないといけない。街路樹担当者にそういう壁になってもらおうと共

に、みんなバックアップしていかねければいけない。その時の方法をいろいろと考えなくてはならない。強剪定の背景に管理者というのがあります。

「街路樹剪定士ハンドブック」の中に、街路樹剪定の目的は「コンパクトにまとめる」と書いてあるが、気候変動とかいろいろ条件に対してこれでは対応できない。ポイントをしつかり正していかなくてはならない。それから街路樹管理担当者が大きな日本の行政の問題点ですけども、ナント、リヨンでは、全部基本的に街路樹担当者はアーボリストですから自分で判断していく。残念ながら日本はゼネラリストになってしまっている。

切詰め剪定では、枝が混んで樹冠の内部の枝は成長が悪くなって枯れてしま

が悪くなって枯れてしま

う。この辺のことを街路樹剪定士指導員自体もしっかりと考えなくてはならない。

ここで樹冠拡大するためポイントなんです。苦情対応剪定、例えば越境枝、遮蔽枝は、当該枝だけを抜き剪定すればいい。それを全部やってしまうのが間違い。通行支障枝は建築限界以下をしつかりと付け根から切除する。樹冠上部は

できるだけ手をかけないで枝を伸ばす。

ストラクチャープルーミングとは、「幹折れ、枝折れしにくい樹形に若木の段階から誘導し、木の寿命を延ばす」これから展開していかなくてはならないポイントだと思えます。

剪定の歩掛は、だいたい幹回りでやっているので、樹冠拡大をどうとすると割に合わなくなつてしま

う。樹冠面積とか樹高で剪定歩掛を算定するようにしていかなくてはならない。

江戸川区ではプロポーザル方式を、東京都も樹冠拡大のときに総合評価方式を一部で取り入れています。名古屋市中では目標樹形と剪定対象枝を示して数社から見積もりを取って受託者を決めています。

神奈川県では平成19年から街路樹フォトコンテストが行われている。ここには素晴らしい街路樹が数多く応募されています。これを見ますと冒頭の「街路樹が都市をつくる」ということは間違えないとしっかりと確認できます。

最後に、お願いしたいことは、管理目標を明確化し共有すること、残念ながら日本の街路樹についてデジタル化が非常に遅れている。街路樹管理体制ですけども、人が管理する体制、管理技術が評価できる発注制度を検討していかなくてはならない。まずは総合評

価方式が考えられます。プロポーザル方式、さらに請負というものを考えなくてはいけません。今頭の中で切り替えていかなくてはならない。

時間となりましてので、私からの講演を終了させていただきます。

第二部 「かながわのみどりを創り、育てる」集い

小山会長の開会あいさつに続き、来賓を代表して神奈川県副知事 浅羽義里氏、続いて神奈川県議会自

民党みどりの会を代表して

持田文男会長より、神造協

の緑への取り組みに対する感謝のお言葉と、引き続き自

民党県議団を中心に緑行政

の推進に努力してまいりますとの力強い激励のお言葉をいただきました。

野浩一様のご発声で乾杯し、和やかに懇親が行われました。

最後に(一社)日本造園建設業協会神奈川県支部相

談役 山田康博氏の閉会のあいさつで散会となりました。



(一社)神奈川県造園業協会 小山俊一会長挨拶



神奈川県副知事 浅羽義里氏挨拶



神奈川県議会自民党みどりの会 持田文男会長挨拶 並びにみどりの会の皆様



公益財団法人神奈川県公園協会理事長 平野浩一氏乾杯挨拶

「みどり行政に関する要望書」

神奈川県庁 (及び出先機関) へ提出

(一社) 神奈川県造園業協会と(一社) 日本造園建設業協会神奈川県支部共同で、九月二十六日に神奈川県浅羽副知事・上前県土整備局長・石渡環境農政局局長を始めとする幹部職員に対し令和二年度に向け要望書を提出し、継続要望五項目について要望しました。

① 校庭及び園庭の芝生化の推進並びにグランド基盤の整備を図るための助成措置と芝生化工事及び維持管理工事の造園専門業者への発注について、造園業界の大変厳しい現状をふまえて要望事項の実現に向けて強く申し入れました。

② ヒアリングの中で、江の島の関係では、県と業界が公共事業を行っていく上で、密に連携してやっていくことができたが、今後はどうなるかわからないが、新しいスタイルが確立したのかと思っている。要望事項①では県土整備局としては前年対比102%、環境農政では緑地の維持管理予算は減っているが、併せて98%の予算を確保。台風で県有地等が被害を受けるなど日常の維持管理が重要な課題となっている。要望事項②の分離発注では県土で34%、120件の発注実績があり、今後も行っていく。要望事項③では、街路樹剪定士が1100名を超え、予算も2億円を超えている。その様な状況の中、元請制度にしてもよいかなど思っているが、地域の実績もあり事務所長の判断にまかしている。要望事項④では、大磯邸園での建物内エリアは国、南側半分は町立公園として、県・町と一緒に進めていきたいが、国もまだ全容が未確定。その様な中で、県と町の役割分担である保全緑地にかかるお知恵を貸していただきたい。要望事項⑤では、維持管理に経費がかかるということで、寄付等を集めて前に進めていくと聞いている。との論議が交わされました。

継続要望事項①として都市公園の再整備、緑地の保全、緑化の積極的な推進を実現するため緑化関連公共事業予算の確保・増加と受注機会の確保について②造園に関わる整備及び維持工事は分離し、指定建設業者である造園専門業者に発注を、また、造園技能士等各種資格所有者の在籍している業者への発注について

③ 一般社団法人日本造園建設業協会認定の街路樹剪定士の積極的活用と街路樹剪定士を下請けではなく元請けの条件として仕様書の明記について④ 「明治記念大磯邸園」整備における神奈川県としての積極的な取り組みについて⑤ 校庭及び園庭の芝生化の推進並びにグランド基盤の整備を図るための助成措置と芝生化工事及び維持管理工事の造園専門業者への発注について、造園業界の大変厳しい現状をふまえて要望事項の実現に向けて強く申し入れました。

これを踏まえて十月十七日と十八日の二日間わたって横浜川崎治水事務所をはじめ各土木事務所等県土整備局十一箇所、自然環境保全センター、県央地域県政総合センター等環境農政局七箇所、企業庁水道局寒川浄水場等計十九箇所の出先機関に要望を行いました。

「令和元年度関東甲信建設業協会協議会」が開催される

情報委員会 委員長 犬山清史
副委員長 濱島千歳

一都八県「令和元年度関東甲信造園建設業協会協議会」が十月九日、十日の二日間にわたってグランドホテル神奈中平塚に於いて参加者(一都七県四十四名、神奈川県二十一名)で開催されました。最初に来年開催される東京オリンピック・パラリンピックのセーリング会場である江ノ島を視察し、神奈川県職員の方から整備の進行状況について説明を受けました。北緑地の芝の管理や会場周辺の植栽整備等さまざまな質問や意見が交わされました。次にバスで大磯町の「明治150年記念大磯邸園(旧吉田邸)」へ移動、建物および庭園を視察し、ボランティアガイドの説明に熱心に耳を傾けていました。

午後には平塚駅前のホテルに於いて造園業界における諸問題について、グループに分かれ、議論が交わされました。特に後継者の育成、若い技術者の確保については、どの地域においても悩みの種になっているということでした。一方で県立相模原公園での庭園部会、庭守による周遊の庭整備については各県の参加者からも「次世代の技術者を育てていく機会や場所が確保できていて羨ましい」「県が場所を提供してくれて、協会

が技術者を育成する場として施工を行っており、両者のパートナーシップがうまくいっているようで羨ましい」という声がかれました。同じ悩みを持つ業界の仲間と意見交換が出来て、客観的に自分たちの置かれた状況を理解することが出来、また協力して業界の発展のため共に頑張っていこうと改めて思った協議会でした。

その後、懇親会が行われ和やかに一日目が終了いたしました。翌日は、参加希望者による親睦ゴルフ大会を開催し、二日間の日程を無事に終了することができました。

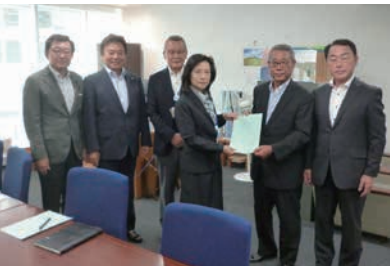
技術には、県・市から高い評価を受けています。なお、この度の研修会の設営にあたりましては日造園協会、神奈川県支部技術委員会、神奈川県土整備局道路管理課、横浜市道路施設課、金沢土木事務所、横浜市金沢産業振興センターの皆様のご協力とご支援を頂き有難うございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。



浅羽副知事に要望



上前県土整備局長に要望



石渡環境農政局長に要望

「明治150年記念大磯邸園(旧吉田邸)」へ移動、建物および庭園を視察し、ボランティアガイドの説明に熱心に耳を傾けていました。午後には平塚駅前のホテルに於いて造園業界における諸問題について、グループに分かれ、議論が交わされました。特に後継者の育成、若い技術者の確保については、どの地域においても悩みの種になっているということでした。一方で県立相模原公園での庭園部会、庭守による周遊の庭整備については各県の参加者からも「次世代の技術者を育てていく機会や場所が確保できていて羨ましい」「県が場所を提供してくれて、協会



江ノ島北緑地の芝管理



旧吉田邸での集合写真



グランドホテル神奈中平塚 協議会場での集合写真



スリーハンドレッドクラブでの集合写真

田口支部長、稲垣秀則神奈川県県土整備局道路管理課副課長の挨拶で始まり一日目は、街路樹に関する基本的事項、病害虫、植栽基盤整備等の講義と、ケース・スタディ、現地剪定及び学科試験を行い、二日目の資格認定実技試験はユリノキとイチヨウの二樹種を対象に行い、主任判定員及び支部判定員らが安全用具や道具の使用法、適確な剪定技術、出来栄などを厳しくチェックしておりました。



街路樹剪定士認定研修会の様子



街路樹剪定士認定研修会の様子

街路樹剪定士 認定研修会

日造協神奈川県支部

昨年同様令和元年度も横浜市金沢区福浦・並木に於いて街路樹剪定士認定研修会が行われました。受講者は、日造協会員十七名・神造協会員三十七名、一般十八名、聴講横須賀市六名の七十八名でありました。

研修会は、十月十六日、十七の二日間で座学研修と資格認定試験が実施されました。

第四十回 「よこはま技能まつり」に参加

第四十回「よこはま技能まつり」が十月二十七日(日)、日本大通りにおいて主催横浜市技能職団体連絡協議会、共催横浜市、横浜市民文化会館協力で開催され、神造協をはじめ三十三の市内の技能職団体が参加し、日頃から磨いているものづくりの職人技を発表・展示し、横浜の技能の素晴らしさを披露し、訪れた人々の賞賛を受けていました。



つ目垣の立子の結束講習ブルーベリーポット苗・竹製の花器販売、花の種の無料配布、造園・園芸相談等が行われました。技能まつり等の一つ一つの取組みが伝統的技術の承継と広がりにつながればと思います。

第十九回 親睦ゴルフ県大会の開催

第十九回目を迎えた今年のゴルフ大会は、十一月六日、仙石ゴルフコースで行われました。

参加者七十三名(会員七十二名・賛助会員一名)

当日は暖かい穏やかな良いお天気の中気持ちよくプレーを楽しんでいました。

各ホールの林と池と早いグリーンが精神的プレッシャーになり、スコアも全体的に厳しいものがありました。

優勝は戸塚支部北村善輝氏、準優勝は日造協神奈川



第19回親睦ゴルフ大会表彰式会場の様子



優勝者 北村善輝氏のスピーチの様子

「公園緑地部会活動報告」
第一回伐木作業等の業務
(追加講習)講習会を開催
公園緑地部会副会長 北村善輝
公園緑地部会・教育研修委員会主催の伐木作業等の追加講習がエスアールエス相模原教習センターにて、十月二十九日に午前・午後の2部構成にて六十一名の参加を得て行われました。2019年8月に特別教育が改正され、追加科目を受講しなければ2020年8月以降は業務につけません。受講者の皆様は熱心に受講され、講習会終了後に修了証が交付されました。現場の職人さん、各企業が安全な仕事ができることを祈念いたします。



伐木作業等の業務(追加講習)の様子

作庭塾「庭守」の活動報告

情報委員 木下 透

会員の石井農園 石井新次氏の計らいで平成30年度から作業をさせていただいている密蔵院(横浜市泉区和泉町)での第一期 客殿雨落ち部分縁石と石積工事が完成(写真参照)し、昨年9月15日(日)には本殿との間に光悦寺垣を設置しました。

14名の参加者の中には作るのは初めてというメンバーも多く、作業は1日ばかりとなりましたが景観を引き締める修景物となりました。

また、庭守で2013年から関わっている県立相模原公園内日本庭園「衆游の庭」での維持管理作業は2019年8月11日(日)に9名、11月10日(日)に12名が参加して行われました。

心配していた台風による倒木などの被害はありませんでした。桜の大木などには随所に腐朽が見られた為通常の剪定作業に加えて危険箇所を枝下ろしも行いました。11月も半ばというのに紅葉にはまだ早く、落葉もまだ先になりそうである今回の作業で締めと



客殿石積み完成状況



巻き上げ材の下処理



黒穂での玉縁巻き上げ施工中



施工前



黒穂での玉縁巻き上げ施工後



集合写真



県立相模原公園 四つ目垣の補修



県立相模原公園 中高木剪定



県立相模原公園 キノコが生えた桜の枝下ろし

支部だより

戸塚支部
フルハーネス型墜落抑止用器具特別教育講習会
情報委員 七澤久信

戸塚支部では令和元年10月26日にフルハーネス型墜落抑止用器具特別教育の講習会を行いました。関係法令の改正により「高さ2m以上の箇所であって作業床を設けることが困難なところにおいて、墜落抑止用器具のうちフルハーネス型のものを用いて行う作業に係る業務」が特別教育に追加されたことにより造園を生



業とする我々に必要不可欠な資格となりました。今回は(一社)東京技能講習協会の出張講習をお願いし、戸塚の生駒植木(株)様会議室をお借りして総勢16名での講習となりました。

講習内容は作業、墜落抑止用器具に関する知識から始まり、ハーネス知識・労災防止に関する知識や関係法令、最後は墜落抑止用器具の使用法としてフルハーネス型墜落抑止用器具を装着し、実際にぶらさがった場合の安定感等を体験しました。普段現場作業を行っている我々にとって座学は眠くなるものですが、講師の方も飽きさせないよう冗談も交えて進行して下さいました。

講習終了後には即時修了証が手渡されましたので、今後は安心してフルハーネスを使った作業を行える事と思えます。講習を行って頂いた講師の方々、また会場を提供していただいた生駒植木(株)様に感謝申し上げます。

湘南東支部
令和元年度
研修旅行
情報委員 犬山清史

恒例となった湘南東支部の研修旅行、今回は愛知岐阜方面へのバス旅行とな

りました。藤沢、茅ヶ崎の集合場所から東名高速を経て、一路多治見市へ。2016年に開館したモザイクタイルミュージアムが

最初の目的地です。大正時代から始まったタイル産業に関するコレクションが展示された建物は建築家、藤森照信氏によるもの。前庭の芝生や屋根の植栽など植物の使い方にも興味を惹かれましたが何より中のモザイクタイルがあふれる世界観に不思議な空間に引き込まれました。

バスに戻り、虎渓山永保寺へ向かいます。鎌倉時代に開創された臨済宗南禅寺派の禅寺で、「虎渓」の名前の由来は、夢窓疎石がこの地を訪れた際、中国廬山に似ていたことに由来すると言われています。国の名勝に指定された池泉回遊式庭園は周りの木々や建物を水面に映し、当日は



永保寺にて

まだ紅葉には早かったのですが四季折々の風景が楽しめるのだろうと感じました。この素晴らしい庭は無料で見ることが出来る(事前に入山許可が必要)のでまた訪ねてみたいと思いました。その夜は岐阜県の下呂温泉に移動、美味しい料理とお酒、いいお湯につかって日頃の疲れも癒やされました。

翌朝は飛騨川沿いを走って愛知方面へ、たまたま立ち寄った世界最古の石の博物館はとても興味深く、マニアックな石や化石などの展示で集合時間過ぎてても皆戻らないほどでした。お昼前には国宝・犬山城へ到着。ちようど天守閣は工事中でその姿を外から見ることが出来た旅でした。

最後の目的地は犬山市の明治村、有名な観光地ですが私も初めての訪問でした。日本だけでなく世界各地から集められた明治時代の建築物はどれも美しく管理され、一日では見切れないほどの広さと内容の濃いところでした。今回の研修旅行は庭園や銘木巨木といった造園の世界とは少し離れた場所が中心でしたが、歴史やアート、建築と造園空間とのつながりを勉強することが出来た旅でした。



モザイクタイルミュージアム

表彰コーナー

厚生労働大臣表彰
技能検定関係功労者
神之園文男 (有神之園)

横浜市

技能功労者
吉田正男 藤造園建設(株)
新堀 博 新堀園
木下 透 (有木下庭園管理)

優秀技能者
杉本健一 (株)杉本造園
田中正樹 (株)田澤園
金子泰規 金寿興産(株)
小林裕也 (株)アートグリーン
溝口造園

川崎市

技能功労者
高塚 星 (株)愛花園

優秀技能者
関根忠和 ダイシ造園(株)
山ノ井政志 (株)山ノ井造園

優秀青年技能者
山ノ井孝太 (株)山ノ井造園

●会員名簿の変更● (平成29年度名簿)

代表者変更

- 緑・西支部
ワコー緑建(株) (会員名簿P.28)
代表者 (旧) 小林和男 → (新) 小林正和
- 湘南東支部
株緑研 (会員名簿P.53)
代表者 (旧) 笠井茂 → (新) 佐々木徳吉

社名変更

- 緑・北支部
株瀧樹園 (会員名簿P.29)
瀧樹園 → (新) 株瀧樹園
TEL045-901-5209 FAX045-901-3295
- 県北支部
株大沢造園 (会員名簿P.64)
大沢造園 → (新) 株大沢造園
TEL0467-76-2728 FAX0467-76-2728

住所変更

- 県央支部
株三田造園土木 (会員名簿P.61)
新住所 〒243-0211厚木市三田3丁目3番12号
TEL046-241-3765 FAX046-241-3717

*令和元年度より会員名簿は作成しませんので、ホームページにてご覧ください。

事務局情報

(月間行事一覧) ●諸会議その他●

12/3 (火)	情報委員会 15:00~
12/7 (土)	第8回技能士コース 9:00~
12/9 (月)	神奈川県事業内職業訓練事業補助金遂行調査 13:30~
12/10 (火)	公園緑地部会 16:00~
12/14 (土)	第9回技能士コース 9:00~
12/21 (土)	第10回技能士コース 9:00~
12/28 (土)	第11回技能士コース 9:00~
1/6 (月)	御用始め 新年造園人の集い (品川プリンスホテルアネックスタワー) 18:00~
1/11 (土)	第12回技能士コース 9:00~
1/14 (火)	神奈川県造園人賀詞交換会 (ロイヤルホールヨコハマ) 18:00~
1/18 (土)	第13回技能士コース 9:00~
1/25 (土)	第14回技能士コース 9:00~ 作庭塾「庭守」座学・意見交換会 18:00~
2/1 (土)	第15回技能士コース 9:00~
2/7 (金)	令和元年度防除関係者講習会 ★定員130名募集中★ (神奈川県農業技術センター多目的ホール) 13:30~

Bridal Banquet Stay Restaurant



ホテル横浜ガーデン

〒231-0023 横浜市中区山下町254番地
お問合せ 045-641-1311
<http://www.yokohamagarden.jp>